

CSR報告ダイジェスト

CORPORATE SOCIAL RESPONSIBILITY REPORT DIGEST

2010



Anritsu

目次

トップコミットメント

■ 誠と和と意欲をもって、新たな価値創造へ。 ————— 02

事業概要

■ 毎日の生活につながるアンリツグループ ————— 04

特集

■ 達成像1:安全・安心で快適な社会構築への貢献 ——— 06

■ 達成像2:グローバル経済社会との調和 ————— 08

■ 達成像3:地球環境保護の推進 ————— 10

■ 達成像4:コミュニケーションの推進 ————— 12

■ 2009年度の目標・実績と2010年度の目標 ————— 14

巻末言

■ 第三者意見／第三者意見を受けて ————— 16

■ 会社概要 ————— 17

アンリツでは、CSR(Corporate Social Responsibility:企業の社会的責任)を「企業活動のプロセスに社会的公正性や環境への配慮などを組み込み、ステークホルダー(お客さま、株主、社員、環境、地域社会など)に対しアカウンタビリティを果たしていくこと。その結果、経済的・社会的・環境的パフォーマンスの向上を目指すこと」と定義しています。

編集方針

今回(2010年度版)も昨年度に引き続きアンリツのCSR活動に関する情報は、ウェブサイトで詳細を、PDFでダイジェスト版として報告します。ダイジェスト版では、『アンリツCSR活動のあるべき姿(達成像)』ごとに特にお伝えしたい活動について分かりやすく報告することを基本としました。ウェブサイトでは、重要性測定により導き出された12の重要課題を達成像ごとに整理し、それぞれの具体的な活動状況を掲載することで、多くのステークホルダーの皆さまにお伝えすることに努めました。

アンリツのCSR活動報告の詳細は、下記ウェブサイトでご覧いただけます。

<http://www.anritsu.com/ja-JP/About-Anritsu/CSR/>

*CSR報告では、アンリツグループの活動のうち、社会および環境とのかわりを中心に報告しています。(財務面の詳細については、ウェブサイト <http://www.anritsu.com/ja-JP/About-Anritsu/Investor-Relations/> またはアニュアルレポートをご参照ください)

[参考としたガイドライン]

GRI「サステナビリティ・レポートガイドライン 2006」

■活動報告対象期間

2009年4月1日～2010年3月31日

(一部には、対象期間前後の活動内容も含まれます)

■活動報告対象組織

報告内容については、項目によりアンリツ(株)のみの場合と、アンリツグループ会社を含めている場合があります。以下のルールで区別しています。

- ・「アンリツ」または「アンリツグループ」
記事内容がアンリツ(株)およびグループ会社全体的場合
- ・「アンリツ(株)」
記事内容がアンリツ(株)単体的場合
- ・「グループ会社」
記事内容がグループ会社またはその一部の場

発行日: 2010年7月29日

お問合先: アンリツ(株)
コーポレートコミュニケーション部
CSR推進チーム

T E L: 046-296-6514

F A X: 046-225-8358

U R L: <http://www.anritsu.com>

(次回は2011年7月に発行予定です)

アンリツは、経営理念、経営ビジョン、経営方針が掲げる基本原則を実践するとともに、グローバル企業として行動すべき原則を示す国連グローバル・コンパクト、および具体的な価値観・行動指針を示すアンリツグループ企業行動憲章を守ることを通して、CSR活動を推進しています。

◆経営理念

誠と和と意欲をもって、"オリジナル&ハイレベル"な商品とサービスを提供し、安全・安心で豊かなグローバル社会の発展に貢献する

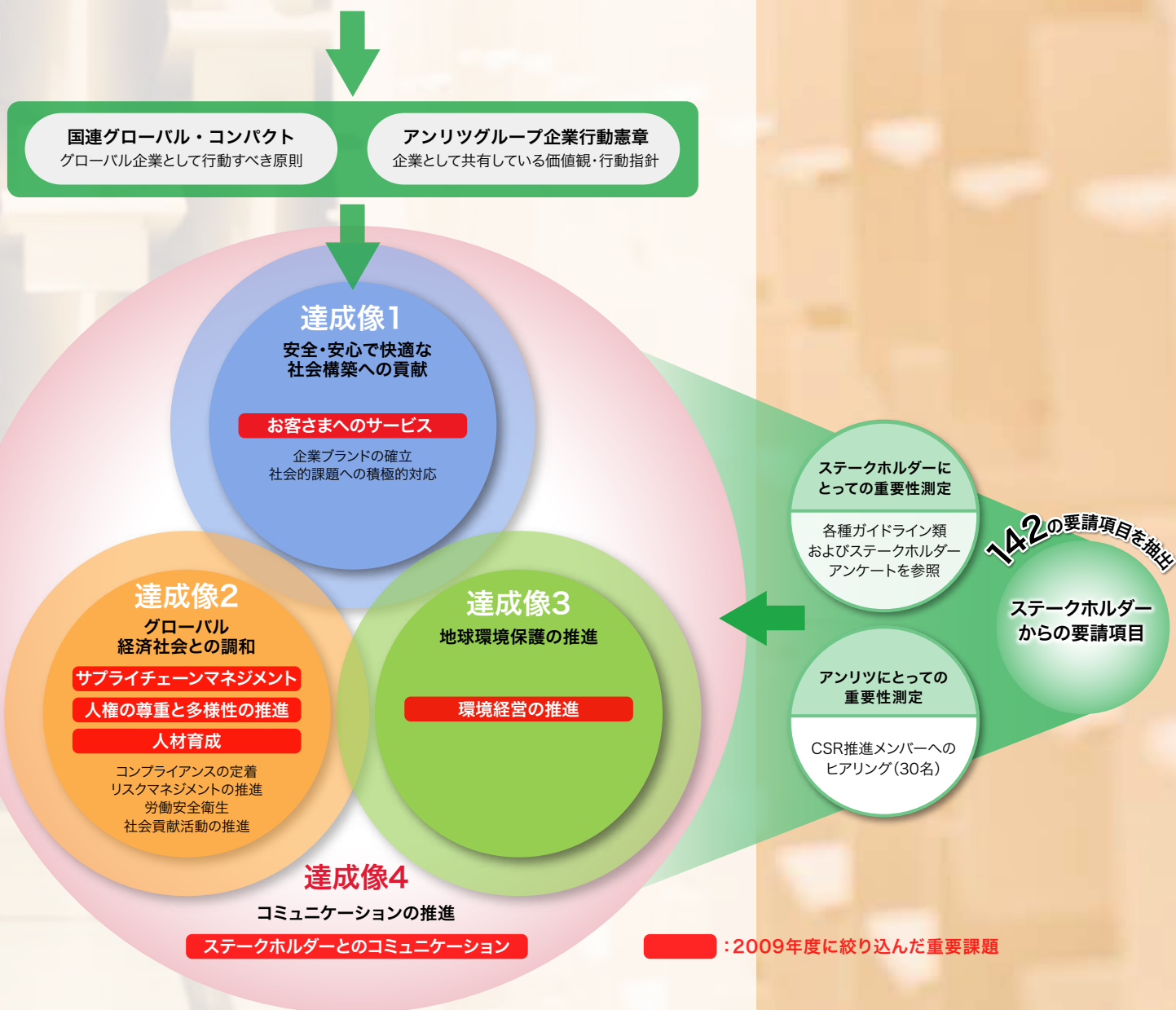
◆経営ビジョン

衆知を集めたイノベーションで"利益ある持続的成長"を実現する

マーケット・ドリブンとカスタマー・フォーカスによるイノベーション活動で、グローバルなマーケットリーダーになる

◆経営方針

1. 衆知を集めた全員経営でハツラツとした組織へ
2. イノベーションで成長ドライバーの獲得
3. グローバル市場でマーケットリーダーになる
4. 良き企業市民として人と地球にやさしい社会づくりに貢献



誠と和と意欲をもって、 新たな価値創造へ。

「誠と和と意欲」こそ、アンリツのCSR

アンリツが本格的なCSR経営に乗り出したのは2004年のことでした。当時、私はCSR担当役員として導入と推進にあたり、社員へのメッセージで、近江商人が商道德とした「売り手よし」「買い手よし」「世間よし」の「三方よし」からCSRの意義を紐解きました。しかし昨今の社会情勢を勘案すると、売り手・買い手・世間だけにとどまらず、「社員よし」と「環境よし」を加えてこそ、一人前の企業として認めてもらえるのではないかと。これが私のCSRの現状認識となっています。

そして、何よりも根底にあるのは、あらゆることに誠心誠意を尽くし「和」を大切にするという、アンリツ115年の歴史を貫く経営理念『誠と和と意欲』であり、それこそが、アンリツのCSRの原点です。

衆知を集めたイノベーション活動で、 社会の安全と安心に貢献

この経営理念のもと、アンリツは社会にどのように貢献していくのか。そのキーワードとなるものが、経営ビジョンで掲げる「イノベーション」です。イノベーションは多くの場合、技術革新としてとらえられていますが、私はイノベーションを「破壊と創造」と理解しています。アンリツグループは、情報通信、食品・医薬品、精密機器など、いずれも社会の安全と安心につながる、多岐にわたる分野で事業を営んでいます。こうした事業で社会に貢献できるのも自社のサステナビリティ、すなわち「利益ある持続的成長」があってこそと言えます。しかし、グローバル経済社会での競争を勝ち抜くのは容易なことではありません。既成の枠組みから脱して、蓄積してきたノウハウ・技術を新たな視点でとらえ直す。組織内に留まらず、お客さま、お取引先さままで含めた「知」を融合し、新たな価値に高める。こうした取り組みによってイノベティブな商品やビジネスモデルを創造していくことが重要です。

例えば、情報通信ネットワークは、社会の矛盾や格差を解消し、社会を変革していくドライバーになりうるものです。現在地球の

人口は約69億人ですが、情報化社会の恩恵に浴しているのは、わずか18億人規模と言われています。わたしたちアンリツは情報格差を解消するだけでなく、情報化社会がもたらす人間性豊かな社会システムの創造、発展に貢献することができると考えています。全社を挙げたイノベーション活動で、社会の安全と安心に貢献し、利益ある持続的な成長につなげていきます。

グローバルな行動指針で事業展開

こうした企業経営で忘れてはならないのが、公明正大な事業活動であり、それを実践する源泉は、社員一人ひとりのコンプライアンス意識です。当社は社員の行動指針として、「アンリツグループ企業行動憲章」を制定し、具体的な活動のあり方を明示した行動規範を策定しています。アンリツグループは、計測事業をはじめ、産業機械事業、精密計測事業、光デバイス事業などほとんどの事業をグローバルに展開しています。現在、社員の4割は日本国外で働いており、計測グループの売上高の7割は日本国外のお客さまによるものです。お客さま、お取引先さまが世界各国に広がるなか、全世界の社員共通の行動指針が必要となり、当社がグローバル・コンパクトに賛同することは自然のなりゆきでした。

アンリツグループ社員一人ひとりが、企業行動憲章、グローバル・コンパクトに自らの考え方、行動を照らし合わせ検証していく。この姿勢を根付かせていきます。

多くのステークホルダーの皆さまに愛され、 支え続けられるために

イノベーションの創出、コンプライアンスの徹底。いずれも一人ひとりの社員のモチベーション、意識にかかわってきます。しかしながら昨年度、当社では企業存続をかけて、雇用調整を含む辛い施策を取らざるを得ませんでした。厳しい環境を乗り越えた今だからこそ、社員に働くことの誇りや思い入れを深めてもらうことが



大切です。個々がハツラツとして働き、輝ける。一人ひとりが成長実感を持てる会社にしていくために、新たな一步を踏み出さなければなりません。2015年に当社は創業120周年を迎えます。長い間、多くのステークホルダーの皆さまに愛され、支え続けられてきたからこそその伝統と歴史です。アンリツのこのDNAを未来に紡いでいくために、経営層と社員、部門、職場の枠にとらわれ

ないコミュニケーションができる風土をつくり、全員経営の礎としてまいります。今後ともアンリツグループの企業活動にご支援とご協力をお願い申し上げます。

2010年7月

アンリツ株式会社
代表取締役社長

橋本裕一

国連グローバル・コンパクト (United Nations Global Compact)

アンリツは、国連グローバル・コンパクトの活動に賛同し、2006年3月に参加を表明しました。



※国連グローバル・コンパクト：人権、労働基準、環境および腐敗防止に関する10原則を支持する団体の集まりです。
1999年1月に開かれた世界経済フォーラムにおいて、コフィー・アナン前国連事務総長が提唱し、2000年7月ニューヨークの国連本部で正式に発足しました。

2010年6月24日・25日、ニューヨーク(アメリカ)で開催された「国連グローバル・コンパクト・リーダーズ・サミット」の中で発表された調査報告書「国連グローバル・コンパクト・アクション・CEO Study 2010」に、当社社長橋本裕一のメッセージが掲載されました。

毎日の生活につながる アンリツグループ

はかる、みまもる、ささえる。

アンリツは、情報通信・映像監視・食品などのさまざまな分野で、
皆さまの暮らしやビジネスを支え、安全・安心で快適な
社会づくりに貢献しています。

計測事業

① 携帯電話をはかる



携帯電話の開発・生産や携帯電話ネットワークの建設・保守で電波や信号をはかり、正常に通信できるかどうかを調べます。

③ 地上デジタル放送をはかる



地上デジタル放送の電波状況をはかり、正常に受信できるかどうかを調べます。

② ひかりをはかる



光ファイバの断線や傷の場所を高精度に特定できる計測器を提供しています。

④ 車をはかる



通信対応カーナビ、ETC、タイヤ空気圧監視システムなどのワイヤレスアプリケーションでアンリツの計測器が活躍しています。



情報通信事業

5 ネットワークをささえる



通信ネットワークを飛び交うデータの交通整理をし、通信品質を向上します。
(アンリツネットワークス株式会社)

6 交通機関や河川をみまもる



道路や河川の状況をリアルタイムに監視できる映像配信システムを提供しています。
(アンリツネットワークス株式会社)

産業機械事業

7 食べものをはかる



レトルト食品などの製造現場で、中に異物が含まれていないかどうかをはかり、食の安全に貢献しています。
(アンリツ産機システム株式会社)

デバイス事業・精密計測事業

8 ひかりではかる



緑内障診断などに使われるOCT(眼球診断装置)には、アンリツの光デバイスが光源として採用されています。
(アンリツデバイス株式会社)

9 ひかりをつくる



光ファイバを伝わる光信号の強さを増加させる増幅器にはアンリツの光通信用デバイスが組み込まれています。
(アンリツデバイス株式会社)

10 デジタルカメラをはかる



デジタルカメラなどの精密機器の製造現場で、プリント基板上の印刷はんだの状態を精確にはかり、適正に印刷できているかどうかを調べます。
(アンリツプレジジョン株式会社)



安全・安心で快適な社会構築への貢献

アンリツは、“オリジナル&ハイレベル”な商品とサービスによって皆さまの安全と安心を守り、事業活動を通じて社会的な課題へ積極的に対応します。

High light 1

デジタル・デバイド解消を支える ハンドヘルド計測器

「詳細はWebへ」。テレビCMや新聞・雑誌の広告、PR記事などでお馴染みの表現です。しかし、インターネットに接続する手段がなかったら。

現実に、ITU(国際電気通信連合)の2008年版各国別インターネット普及率から全世界の平均値を推定すると、約23%(ITU調査による)にとどまっています。情報通信ネットワークの利便性が高まれば高まるほど、「デジタル・デバイド」*1が社会的な課題となってきます。

こうしたなか、世界各国では、無線通信ネットワークの構築が活発に行われています。ここで使用されているのが、アンリツの小型計測器です。この計測器は、山間部やビル内、地下街などへ簡単に持ち運べるハンドヘルドサイズでありながら、大型の計測器と遜色のない機能・性能を保持しています。無線基地局用のハンドヘルド計測器のきっかけになったのは、オープンレンジほどの大きさの計測器を担いで山頂の基地局を目指す保守作業者の写真でした。「小さくできれば、きっと助かるに違いない」。そう考えた一人のエンジニアがある日の昼食中、ひらめいた回路図をテーブルナブキンに書きとめた瞬間からハンドヘルド計測器の歴史が始まったのです。そして数年間の開発期間を経た1995年。無線基地局用としては世界初となるハンドヘルド計測器が誕生しました。以来、通信技術の進化に足並みを揃え、アンリツのハンドヘルド計測器は、携帯



電話やWiMAX*2など、さまざまな無線通信システムの基地局のアンテナやケーブルの障害検証から、空中を飛び交う電波の品質測定まで対応。無線基地局の建設・保守用計測器として幅広く利用されています。

*1デジタル・デバイド:

情報通信技術(特にインターネット)の恩恵に浴することのできる人とできない人の間に生じる格差のこと

*2WiMAX:

高速無線通信システムの一つ
(Worldwide Interoperability for Microwave Access)

無線基地局の保守で用いられる
ハンドヘルド計測器

High light 2

海を越えたブロードバンド通信を支える “Only One”計測器

いつの時代も、国際間の通信網として利用されていた海底ケーブル。インターネットの急激な普及に伴いブロードバンド化が進み、現在では国際間の通信ネットワークの90%超が光ファイバとなっています。しかし、映像や動画、音楽、ゲームなどいわゆるリッチコンテンツが急激に普及している今日、インターネット上を行き来する情報量は増大の一途をたどり、2013年には、現在の約5倍となる年間667エクサバイト(1エクサバイトは、世界中で発行されている印刷物の情報量に相当)に達すると予測されています。このため、各国の通信関連企業は、光海底ケーブルの新規敷設や増強に取り組んでいます。

ときに1万キロ超におよぶ光海底ケーブルは、海底地震や地形のおうとつ、漁具などさまざまな要因で破損することがあり、迅速なトラブル対応が極めて重要です。その出発点となるのが障害箇所の探索ですが、これを可能とする計測器を提供しているのは世界でただ1社、アンリツだけです。アンリツは、長さ12,000kmの光海底ケーブルの障害箇所を10m間隔で特定できる計測器を提供。陸上での障害点探査、補修後の品質確認などさまざまな場面で使用され、海底に張り巡らされた情報の道を支えています。

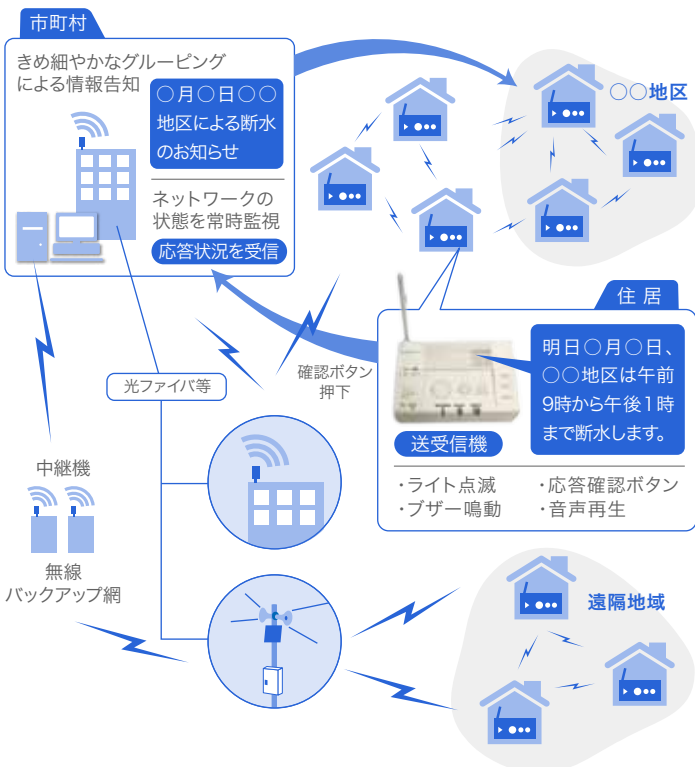


High light 3

防災/減災・防犯ネットワークの 高度利用に向けて

日本各地で時刻になると聞こえてくる「赤とんぼ」や「夕焼け小焼け」。実はこれらのメロディは、市町村防災行政無線が故障していないことを確認するための試験としても流されています。市町村防災行政無線では、地震や台風など大規模災害発生時の避難勧告や退避命令、行方不明者の捜索協力依頼などが放送されますが、情報が一方通行であり、また地域によっては明瞭に聴き取れないといった難点があります。

そこでアンリツネットワークス(株)は、(株)NTTデータさまとの協業により、「減災コミュニケーションシステム」を開発しています。このシステムは、双方向通信を最大の特徴としており、災害発生時に緊急情報を地域住民の皆さまに伝達するとともに、被災者の安否も確認できます。また平常時には、休日当番医、断水のお知らせなどにも利用でき、より地域住民の皆さまに役立つ行政サービスの実現に貢献しています。



High light 4

食品・医薬品の安全と 廃棄ロス低減に貢献

食品、医薬品にあってはならない品質不良。直接口にするものの安全と安心は社会的な要請です。アンリツ産機システム(株)では、加工、包装、最終検査までの一連の工程で必要とされる検査機器を提供。原材料、内容量の正確な計量から加工時、包装時、出荷検査時における異物検出まで対応した製品が、国内外の食品メーカーのオートメーションラインに組み込まれています。

また、材料資源の無駄排除の観点から、サステナブル社会を志向した取り組みも推進しています。その代表例がX線異物検出機。X線異物検出機は、直径0.2mmの金属片に加え、骨や石、プラスチックなどの異物も検出できることから最終検査での利用が主流となっています。しかし、この段階で異物混入が発見された場合、加工、包装後の製品を廃棄することになり、食材や包装資材のロスにつながります。そこで、アンリツ産機システム(株)では、X線異物検出機のラインアップ拡充を進め、大袋に入った原材料の異物検査を可能とする大型製品対応モデルも提供。加工前の段階で品質検査が行え、材料資源の廃棄ロス低減に貢献しています。



グローバル経済社会との調和

アンリツは、誠実な企業であるための基盤を強化し、社員の人権の尊重と多様性に配慮した働きやすい職場を整備するとともに、サプライチェーンや地域・社会との信頼関係を構築します。

High light 1 サプライチェーンマネジメント

サプライチェーン全体で 社会の期待や要請に応えます。

アンリツグループでは、取引先さまとの信頼関係を強化し、お互いの成長につなげていくことが重要と考えています。取引先さまにさまざまな活動に参画いただき、より強固なパートナーシップを構築していくこと、さらにサプライチェーン全体で社会の期待・要請に応えていくことを重視しています。取引先さまに願う「方針およびお願い事項」に加え、2009年度には従来からの「資材調達基本方針」に環境への配慮を新たに追加し、取引先さまへの品質および環境監査の中にCSRに関する内容を追加した監査を開始しました。今後もCSRの構築に向けた環境や体制の整備を継続して進めていきます。また、主にサプライチェーンのBCP(事業継続計画)についても、アンリツ本社と東北アンリツが連携する計画を策定し、リスク管理に努めていく予定です。

提案を通し 社会に貢献する パートナーとして

丸文株式会社
営業第2本部 営業第2部 第1課

佐々木 滋正 様



電子部品の納入を通し、アンリツさまと弊社は長年のお取引があります。日頃から情報交換、共有などを通し、単なるメーカーと取引先ではなく、パートナーとして活動させていただいている実感を持ちながら活動しています。取引先である我々の意見を取り入れ、より良い関係の構築やビジネスの改善を提案できるパートナーQU活動は大変興味深いと感じています。このような、お互いの発展につながることを提案できる機会はなかなかないと思いますので、ぜひ広くこの活動の提言を行われてはいかがでしょうか。弊社のCSR活動も向上させ、アンリツさまの製品がお客さまから高い評価と支持が得られるよう努めたいと考えております。

High light 2 人権の尊重と多様性の推進

多様な人材が働きやすい制度や 職場環境の整備を重視しています。

グローバルな事業展開や働き方の多様化に伴い、人権の尊重と多様性に配慮した働きやすい職場づくりを推進しています。階層別研修や企業倫理月間、コンプライアンス推進強化週間などを通じた人権啓発活動に加え、障がい者雇用の推進や障がい者がより働きやすい職場づくり、海外における大学主催のジョブフェア*への参加や、日本国内における留学生の採用など、国籍にこだわらない採用のボーダレス化にも取り組んでいます。また、経営に対する理解や諸制度、職場のコミュニケーション、仕事のやりがいなどを把握するため、2009年度はアメリカ、ヨーロッパ、アジアパシフィック、日本で社員満足度調査を実施し、各地域での課題抽出や改善計画の立案・実行を進めています。

*ジョブフェア：求職者と複数企業の情報交換、相互理解の場

一段上に上がるために 日々勉強

アンリツ株式会社
R&D統轄本部 第2商品開発部

林 維蓉 (Lim Weiyong)



日本語と日本の技術を学びたいと考え8年前にマレーシアから来日し、2年前からアンリツで働いています。日本語での会話は友人との間では問題ありませんが、仕事で出会う専門用語はまだ分からないことが多く、難しさを感じます。職場の先輩方はとても丁寧に教えてくださり、感謝しています。勉強は学生時代で終わりではなく、むしろ会社に入ってからの方が多くを学ばなければ成長できません。責任を自覚し、周りの人たちに迷惑を掛けまいと日々勉強することが、今の私のやるべきことだと思っています。仕事も社会人としても一段上に上がるために、これからも知識を磨いて、自分の専門性を高めていきたいと思っています。



High light 3 グローバルでの地域貢献・社会貢献活動

地域社会の一員として、
今後も良好な企業市民であり続けます。

事業活動を行っていくうえで、地域との良好な関係は欠かせません。アンリツグループでは、「青少年教育との連携」、「地域社会への貢献」、「環境推進活動」の3つを柱とした地域密着型の社会貢献活動を軸に、社員が主体的に参画できる活動を継続的に展開しています。



Action 1 デンマーク・アメリカ・中国・日本

▶地震被災地への救援金募金活動

2010年1月のハイチでの地震および2月のチリでの地震による被災者を支援するため、国内アンリツグループ、アンリツ・カンパニー（アメリカ）、アンリツA/S（デンマーク）ではそれぞれ社員に呼びかけ救援金を募りました。また、2010年4月の中国・青海省での地震では、アンリツ・カンパニー・リミテッド（中国）が救援金募金に協力しました。

Action 4 アメリカ

▶恵まれない子どもたちや家族を支援する活動に参加

アンリツ・カンパニー（アメリカ）の社員は、毎年クリスマス休暇の頃に恵まれない子どもたちに玩具を贈る『メイク・ア・ウィッシュ』や、地域の恵まれない家族にクリスマスプレゼントや食料などを贈る『アダプト・ア・ファミリー』という活動に参加しています。



Action 2 デンマーク

▶ボスニアの動物保護の支援活動に協力

アンリツAB（デンマーク）の社員は、出身地であるボスニアの動物たちを保護する支援活動に取り組んでいます。1990年代の紛争により放置された犬や猫たちを保護する動物愛護団体と協力し、募金活動やフリーマーケット、カレンダーの販売などを行っており、デンマークやスウェーデンオフィスの社員も購入することで支援活動の輪を広げています。



Action 5 日本

▶おもしろ理科実験教室

アンリツは神奈川県厚木市の呼びかけに応じ、子どもたちに豊かな体験を通して理科・科学に対する興味を高めようことを目的とした「おもしろ理科実験教室」を近隣の小学校2校で実施しました。



Action 3 イギリス

▶がん患者を支援する募金イベントに参加

アンリツ・エメア・リミテッド（イギリス）では社員が、1911年にイギリスで設立されたマクミランがん救済団体が主催する募金イベント『マクミラン・コーヒー・モーニング』に参加しました。集められた寄付金はマクミランがん救済基金に寄付され、がん医療に活用されます。

Action 6 日本

▶環境推進活動（生物多様性保全）

生物多様性保全への取り組みの一環として、社員ボランティアを中心とした環境推進活動を実施しています。自動販売機での売上金の一部が寄付される「緑の募金」活動を実施しています。また、国内アンリツグループの社員が富士山「緑の募金の森」緑化活動にも参加し、環境推進活動を展開しています。

地球環境保護の推進

達成像

3

メッセージ

持続可能な地球の
未来への貢献を目指し、
環境経営を実践していきます



アンリツグループは、2010年4月から新経営体制となり、新たな経営方針の一つとして「良き企業市民として人と地球にやさしい社会づくりに貢献」を掲げました。わたしたちは、従来にも増して地球環境保護の重要性を認識し、持続可能な地球の未来への貢献を目指して環境経営を推進していきます。

その中でも、地球温暖化防止を最重点課題の一つととらえ、事業活動と商品の両面から取り組んでいます。事業活動においては、工場やオフィスでの省エネルギー活動と設備面での強化により、エネルギー効率を高めていきます。商品においては、省エネルギー化や省資源化設計を徹底し、温室効果ガス排出量の削減に努めています。

また、上記と並んで重要な課題である生物多様性保全に対し、当社では環境負荷低減活動と自然保護活動に取り組んでいます。

これからは、環境を中心とした社会のあり方を想定したうえで、イノベーションをおこしていく時代です。社員一人ひとりがエコマインドを高め、地球環境保護に基づいた新たなソリューションを生みだしていくという未来展望を描いています。

今後もステークホルダーの皆さまとのコミュニケーションを進め、信頼される環境経営を実践していきます。



アンリツ株式会社
取締役 執行役員
小熊 康之

商品設計・お客さまの使用段階 エコプロダクツ開発

アンリツグループでは、すべての開発製品において設計の初期段階から質の高い製品アセスメントを実施し、クリーン（有害物質の排除）・省エネルギー・省資源な環境配慮型製品の開発を積極的に進めながら、製品環境規制にグローバルに対応しています。また、独自のグローバル製品アセスメントの結果を踏まえ、エクセレントエコ製品とエコ製品を環境配慮型製品として認定し、エクセレントエコ製品にはカタログなどにマークと商品に関する環境情報を併記しています。

複数機能を搭載しながら 小型化を実現

アンリツ株式会社
マーケティング本部
商品企画センター 企画チーム2 主任
西小原 匡則



商品名:MP2100Aパートウェーブシリーズ

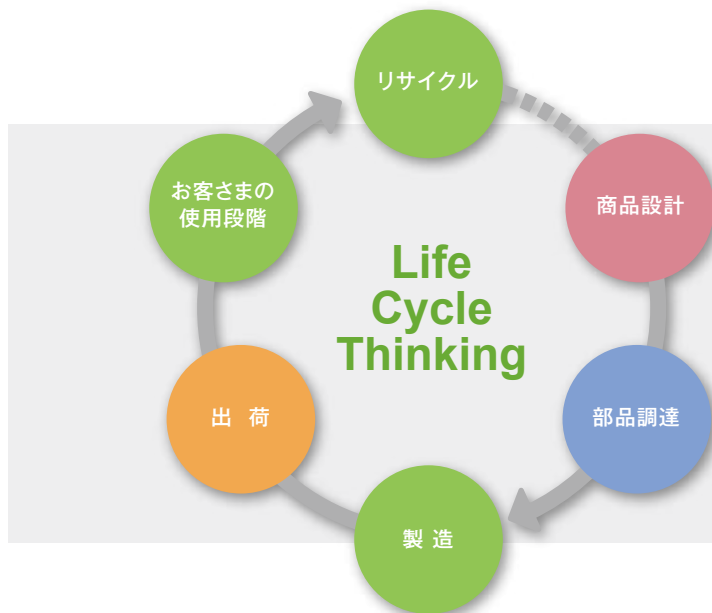
近年、企業から家庭にまで拡がりを見せている光通信システムでは、光トランシーバモジュールや各種電気デバイスを組み込んで伝送しています。MP2100Aパートウェーブシリーズは、こうしたモジュールやデバイスの信号品質を評価するための計測器です。複数機能を一台に集約しながら、小型化・軽量化・低消費電力化を実現するため、電源やCPU(情報処理部)周辺をはじめとしたすべての回路や部品を見直すことにより、従来商品に比較して、体積47%、質量72%、消費電力72%の削減を達成することができました。



エクセレントエコマーク



MP2100Aパートウェーブシリーズ



Life Cycle Thinking

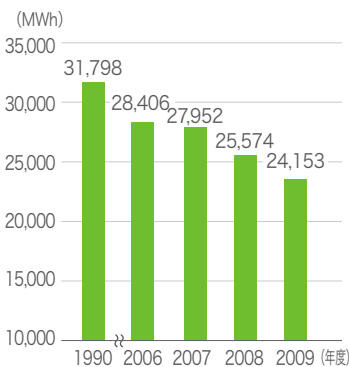
ライフサイクルシンキング

アンリツグループは、商品設計から部品調達、製造、出荷、お客さままでの使用段階、そしてリサイクルまで、製品ライフサイクル全般にわたり、環境に配慮した取り組みを推進しています。環境経営の柱の一つである環境配慮型製品の提供を加速させるのはもちろんのこと、社会問題として急浮上しているIT機器の消費電力増加に対しても、独自技術を活かした取り組みを意欲的に進めています。

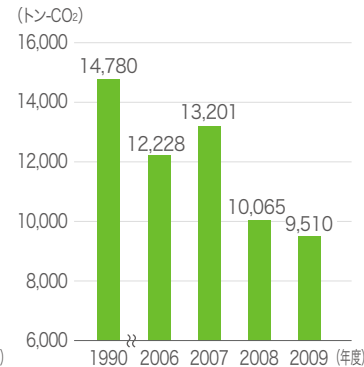
製造 エコオフィス・エコファクトリー

アンリツでは、消費するエネルギーの約96% (CO₂排出換算比) を占める電力の使用量を削減するため、継続的に省電力に努めています。これまで省エネルギー設備の導入や更新、昼休み消灯などの節電活動で省エネルギーを推進してきました。また、2005年度からは、チーム・マイナス6%に参加し、クールビズ、ウォームビズ活動に取り組んでいます。2009年度は2008年度と比較して電気エネルギー使用量は5.6%削減となりました。空調設備を省エネルギータイプに更新したことや操業時間の短縮が主な要因です。

■ 電気エネルギー使用量推移
(国内アンリツグループ)



■ 【参考】全エネルギー使用による
CO₂排出量(国内アンリツグループ)*



*CO₂排出量は「地球温暖化対策の推進に関する法律」施行令の換算係数を、電気エネルギーのCO₂排出量は、各年度に電気事業連合会より公表されるCO₂換算係数(トン/MWh)を用いて算出しています。CO₂換算係数は年度によって増減があるので、電気エネルギーは削減しているがCO₂排出量は増加している年度もあります。

リサイクル

アンリツ興産(株)に2000年に設立されたリサイクルセンターでは、使用済み商品のリユースを推進、廃棄物の分別を徹底することにより、排出される廃棄物を100%リサイクルしています。また、デモンストラレーションに使用した機器などの中から選りすぐったものを再生し、アンリツのもとで修理・校正を行った信頼性の高い商品である、リファビッシュト計測器の販売も日本国内の大学・教育機関を対象に行い、商品の長寿命化に貢献しています。

大学・研究機関の パートナーとして期待

長岡技術科学大学
工学部・電気系電子デバイス・
光波エレクトロニクス工学講座 准教授
塩田 達俊 様



先端光計測システム研究室を開設し、多数の計測機器を揃える必要があった私にとって、リファビッシュト計測器は非常に心強いサービスです。廉価な価格で購入でき、機能・性能にも信頼が置けることに加え、循環型社会形成にもつながる環境に優しい商品です。

光技術は、情報通信にとどまらず、医療、位置情報・距離情報システムなど、さまざまな分野での応用が期待されているにもかかわらず、予算的には決して恵まれていません。設備の維持・拡充に苦勞している大学・研究機関のパートナーとして、今後もこの取り組みが継続されることを期待しています。

TOPIC

アンリツ・カンパニー(アメリカ)は、本社のあるサンタクララ郡のグリーンビジネスプログラムに参加しており、環境に配慮したビジネスを実行している企業としてサンフランシスコ・ベイエリアの南部の郡で初めて認定されました。グリーンビジネスは、環境法令の遵守、エネルギー・水・資源使用の節約、汚染の防止・廃棄物の抑制を事業活動の中で取り組むプログラムです。

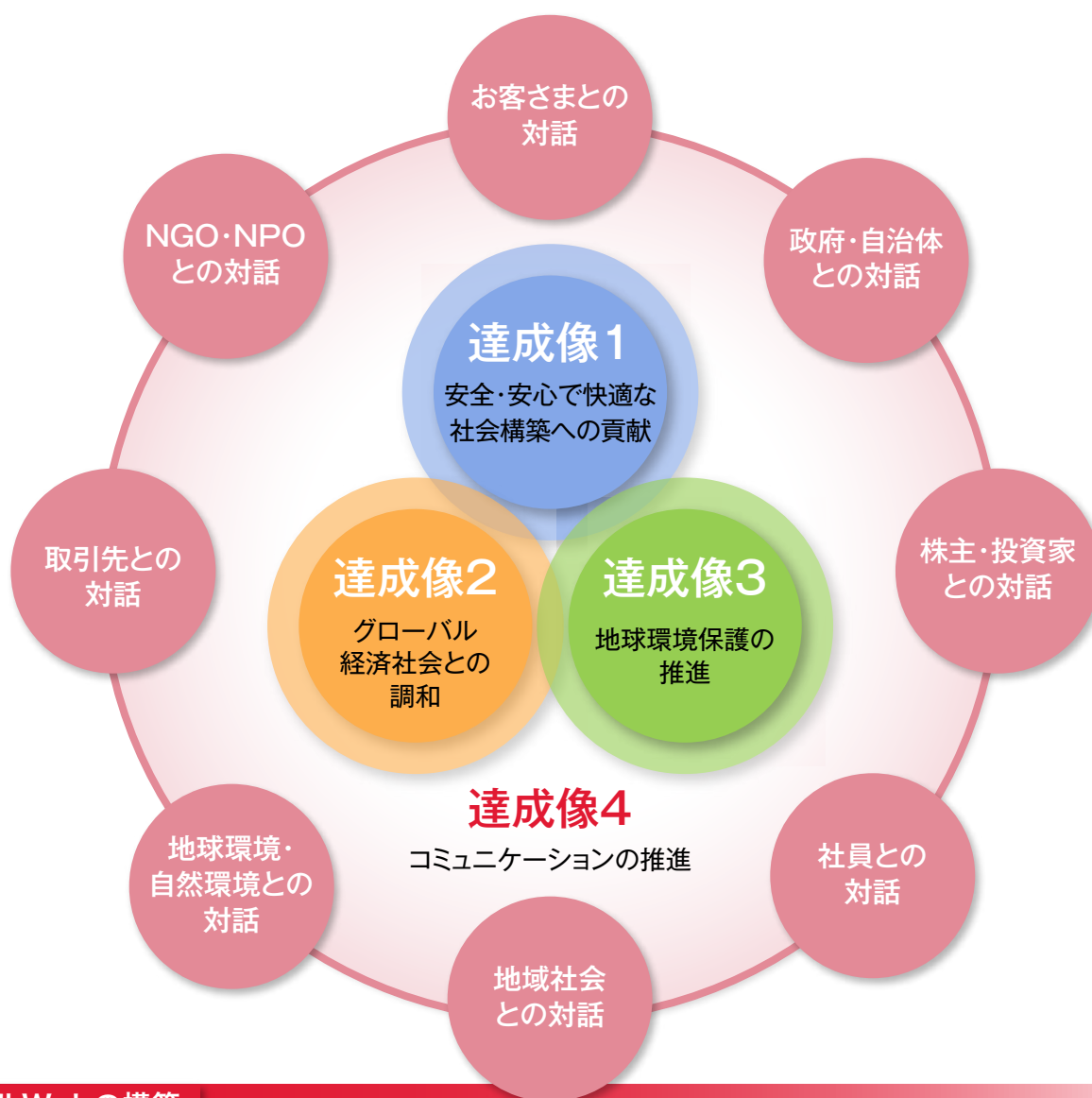


現在そして未来世代のために地球を守ります。

わたしたち社員は、グリーンビジネスプログラムやISO14001を守ることによる環境改善活動の重要性を十分認識し、会社だけでなく、各自の家庭においても環境保護への取り組みを推進しています。これからも、現在そして未来世代のために我々の地球を守ることに積極的に貢献していきます。

コミュニケーションの推進

アンリツは、事業活動全体を通して、ステークホルダーへの積極的な情報開示と対話を行い、良好なパートナーシップを構築します。



グローバルWebの構築

2009年度、日本・韓国・台湾のウェブサイトが、他の地域にさがけて新しく生まれ変わりました。お客さまからの声に応えるべく、製品情報やサポート・サービス情報が検索しやすい構成を目指しました。また、お客さまが必要なときに必要な情報を入手できることを目指し、ソフトウェアや資料のダウンロード機能に加え、オンライン見積り請求などの機能を充実させました。

2010年度は、欧米・中国などへの展開を予定しています。世界のお客さまへの同一のサービス・サポートや情報共有に加え、各国に応じた情報提供やサービス・サポートの充実をはかり、今後もグローバルなお客さまのニーズにお応えしていきます。



アンリツ・グローバルウェブサイト



お客さま



株主
投資家



社員



地球環境
自然環境



地域社会



取引先



NGO
NPO



政府
自治体

お客さまとのコミュニケーション

お客さまに満足していただくよう、より迅速な情報発信やサービス向上に努め、「お客さまから厚く信頼される企業」になるため、次のようなコミュニケーション活動を行っています。

- CSR報告
- 企業広告
- メールマガジン
- CSアンケート
- 商品広告
- 会社案内
- 各種展示会
- 商品カタログ



展示会

株主・投資家とのコミュニケーション

株主・投資家の皆さまのニーズへの確にの応えとともに、いただいたご意見を事業活動やIR活動の改善に役立てるために、双方向のコミュニケーションに努めながら積極的な情報開示を行っています。

- 国内外機関投資家への説明活動
- 個人投資家向け説明会
- 株主懇談会、株主アンケート
- アニュアルレポート・事業報告書
- アンリツWebサイトのIRページ



個人投資家向け説明会

取引先とのコミュニケーション

取引先さまとより強固なパートナーシップを構築し、サプライチェーン全体で社会の期待・要請に応えるため、次のような活動を行っています。

- 情報交換会
- 『資料調達基本方針』、『お願い事項』
- パートナーQU制度
- 取引先さまによる技術セミナー



情報交換会

社員とのコミュニケーション

社員一人ひとりがプロフェッショナルとして自ら考え行動し、ハツラツとした組織風土をつくるために、次のような情報発信、対話活動を行っています。

- 社長オフサイトミーティング
- 社員満足度調査
- Web社長室
- Web社内報
- 季刊誌社内報
- CSR報告



季刊誌社内報

CSR報告

2009年度の目標・実績と2010年度の目標

特に記載のある場合を除いて、対象はアンリツ(株)および国内グループ会社です。

達成像	重要課題	2009年度目標
【達成像1】 安全・安心で 快適な社会構築への貢献	お客さまへのサービス	①グローバルCS推進体制の再構築 ②グローバルCSアンケート調査の再検討 ③地域ごとのCS教育・CS報奨制度の検討と実施
	企業ブランドの確立	2009年度中に具体的な取り組みを検討
	社会的課題への 積極的対応	2009年度中に具体的な取り組みを検討
【達成像2】 グローバル経済社会との 調和	コンプライアンスの定着	①各組織におけるコンプライアンス推進計画の実施とレビュー ②グループ行動規範の英語版の策定と配布 ③国内グループ会社のヘルプラインの位置づけと運用の明確化
	リスクマネジメントの 推進(情報セキュリティ)	①重要管理策40項目をクリアするための管理システム導入、評価、プロセス設計 ②協力会社、社員へのセキュリティの教育・啓発活動の推進 ③事業継続に不可欠なサーバの耐震性強化 ④グローバルなWebセキュリティポリシーによるシステムの運用開始と徹底および課題分析 ⑤サーバ統合によるグリーンITの実現
	リスクマネジメントの 推進(内部統制)	グローバルな財務報告にかかわる内部統制がアンリツグループ内の主要部門で定着し、 「グローバルなリスクマネジメント体制の背骨」を構築 - 内部統制の効果的なモニタリングによる主要な財務報告リスクと コンプライアンスリスクの社内共有と、有効なコントロールの設定 - 財務報告にかかわる内部統制の整備・運用状況の効率的なモニタリングによる運用コストの低減
	サプライチェーン マネジメント	①グローバルレベルで調達方針が見直しできる体制を構築
		②取引先の新規登録時に、アンリツの調達基本方針を合意確認
		③品質監査時にCSR監査を行う体制を構築
		④事業継続に重要なプロセスである3つのプロセス(製造・購買・情報)のBCPの見直しと訓練の実施
	人権の尊重と 多様性の推進 人材育成	①経営トップと一般社員、部門間、職場内でのコミュニケーションを活性化するための仕組みや制度の構築
		②人事評価制度、評価サイクルの再検討 ③社内人材の活用による教育研修プログラムの検討
		④社員との対話の継続実施とキャリア支援計画の策定と実施(USA・UK・中国)
	労働安全衛生	①労働時間適正化施策によるワークライフバランスの向上を目指した労働環境の整備
		②メンタルヘルス対策の充実による安全衛生の維持、向上
		③社員との対話を継続的に進め、労働安全衛生の環境整備施策を計画・実施(USA・UK・中国)
	社会貢献活動の推進	①本社厚木地区の地域社会貢献活動の継続。自治会との交流
		②社会貢献活動の方針と重点課題策定とグローバル展開
		③社会貢献活動の社外向け報告を半期ごとに実施
		④地域社会貢献・社員ボランティア活動をグローバル地域で実施
		⑤地域社会貢献・社員ボランティア活動の継続的実施・支援(USA・UK)地域社会貢献活動への参加(中国)
【達成像3】 地球環境保護の推進	環境経営の推進	①廃棄物の削減・リサイクル - 廃棄物(一般廃棄物+産業廃棄物)の排出量を2008年度比2%削減(国内アンリツグループ) - 埋め立てに回される廃棄物の排出量を2009年度第4四半期までに2009年度第1四半期比10%削減(USA) ②省資源・省エネルギー - エネルギー使用量(原油換算)を2006年度比4.5%削減(国内アンリツグループ) - エネルギー使用量を2008年度比2%削減(USA) - 紙の使用量を2008年度比10%削減、水の使用量を2008年度実績以下に抑制(USA) ③エコプロダクツ - 開発製品の中で環境配慮型製品の占める割合：80%以上(国内アンリツグループ) - 開発製品の中で従来機種比省資源10%以上の機種の占める割合：30%以上 (対象項目：体積、質量、分解時間、消費電力)(国内アンリツグループ) - 開発製品の中で従来機種比消費電力改善率30%以上の機種の占める割合：20%以上(国内アンリツグループ) - 環境配慮型製品および製品のCO ₂ 排出量の目標指標の見直し(国内アンリツグループ) ④維持監視項目 - ゼロエMISSIONの維持：埋立率0.5%未満(国内アンリツグループ) - 無機系排水の自主管理基準超過ゼロの維持：0件(厚木地区)
		注：環境目標についての補足 実質売上高原単位は業績により変動しやすいため、廃棄物は総排出量に、省資源・省エネルギーはエネルギー使用量(原油換算)に目標を改めました。
【達成像4】 コミュニケーションの推進	ステークホルダーとの コミュニケーション	2009年度中に具体的な取り組みを検討

USAとはAnritsu Company(アメリカ)、UKとはAnritsu EMEA Limited(イギリス)、中国とはAnritsu Company Limited(香港)を表します。

太枠内は2009年度に絞り込んだ重要課題を示す。

2009年度実績	達成度	2010年度目標
①国内アンリツグループを中心としたCS推進体制を再構築 ②日本での調査方法を改善。グローバル調査は今後の課題 ③アメリカと日本でCS教育、報奨を実施、他拠点は今後の課題	○ △ △	①国内アンリツグループのお客さま窓口の整備、回答品質の向上 ②国内アンリツグループの各事業に特化した個別CS調査の実施 ③CS方針の各事業グループへの展開とCS教育の実施
本業を通じた“安全・安心で快適な社会構築への貢献”を さまざまなコミュニケーション活動で発信	○	Webを活用した適時なコミュニケーション活動の推進
社会の要請と自社にとっての重要性から整理されたCSRの重要課題を CSR推進委員会メンバーと共有	○	重要課題の絞込みとステークホルダーとのコミュニケーションの推進
①国内グループ会社を含めた各組織における コンプライアンス推進計画立案とレビューを実施 ②グループ行動規範の英語版を策定。配布・公開は次年度に予定 ③国内グループ会社のヘルプライン窓口と情報交換会を開催	○ △ ○	①グローバルなコンプライアンス推進計画の立案と実施 ②改訂版グループ行動規範のWebでの公開と冊子の配布による コンプライアンス意識の向上 ③国内グループ会社のヘルプライン窓口との連絡体制の構築
①サーバ管理システムを導入し、サーバ監視プロセスの見直しを開始 ②新入社員教育、企業倫理月間にセキュリティ関連の啓発活動を継続実施 ③耐震構造のサーバラックに移設を完了 ④グローバルWebについては、プロジェクト進行中のため未達成 ⑤仮想化により実サーバ台数154台を91台に集約	○ ○ ○ × ○	①グローバルなIT統制の確立 ②協力会社、社員へのセキュリティの教育・啓発活動の推進 ③システム監視業務の改善 ④グローバルなWebセキュリティポリシーによる運用改善 ⑤サーバ統合によるグリーンITの実現 ⑥駆逐用機器などのウィルス対策の強化
グローバルな財務報告に係る内部統制の評価体制整備が完了(日・米・欧・アジア) - グループ内の最良な実例を共有し、有効なコントロールを展開 - 内部統制の評価項目の統廃合と監査の統合を実施	○	①有効で合理的な内部統制のモニタリングによる リスクマネジメントの強化 ②欧州での内部統制評価体制の拡充によるグローバルな リスクマネジメント体制の強化
①グローバルレベルで調達方針が見直しできる体制案を策定 ②取引先の新規登録時に、アンリツの調達基本方針を合意確認 ③品質監査時にCSR監査を行う体制を構築 ④BCPの見直しを実施、訓練計画を検討	△ ○ ○ △	【SCM(サプライチェーンマネジメント)】 ①グローバルレベルで調達方針が見直しできる体制の構築 ②定期取引先監査体制の構築 ③CSR調達の立上 【BCP(事業継続計画)】 ①グローバルレベルでのBCPの策定と実施 ②市場状況に応じ、BCPが見直しできる体制の構築
①経営トップと一般社員とのオフサイトミーティングを毎月実施。 部門間、職場内はグループ単位の業務改善活動によるコミュニケーションを推進 ②社員満足度調査により現状認識を把握。今後の見直しに向けた準備を開始 ③新入社員マナー教育、技術教育にグループ会社を含む社内講師を活用 ④少数派優遇制度(Affirmative Action Plan)に基づく採用(USA) 社員教育、育成を継続実施(UK) 社員意識調査をUSA、欧州、アジアパシフィック地域で実施	△ △ ○ ○	①教育研修プログラム、キャリアパスなどの再構築 ②障がい者雇用の推進 ③グローバルに活躍できる人材の長期的育成体系の構築 ④社員との対話の継続実施とキャリア支援計画の策定と 実施(USA・UK・中国)
①労働時間適正化施策を継続展開。所定外労働時間の削減、定時退社日の退社率の改善 ②社外産業カウンセラーを中心とした階層別メンタルヘルス教育を実施。 カウンセリング機会を拡充 ③社員への安全衛生教育を実施(USA) 社員の福利厚生への補助を継続実施(UK)	○ ○ ○	①労働時間適正化施策の展開(継続) ②アンリツ(株)本社地区の休業災害ゼロの継続 ③メンタルヘルス対策の充実(継続) ④社員との対話を継続的に進め、労働安全衛生の環境整備計画の 策定と実施(USA・UK・中国)
①本社厚木地区の青少年教育への地域社会貢献活動を継続。自治会との交流会を実施 ②社会貢献活動の方針と重点課題をWeb「CSR報告2009」で公開。活動報告を実施 ③社会貢献活動の社外向け報告を半期ごとに報告は未達 ④、⑤地域貢献イベント支援、寄付、災害支援活動を継続実施(USA・UK・中国)	○ ○ × ○	下記内容をグローバルに展開。 ①地域社会貢献の方針の浸透と各地域での活動の推進 ②地域社会貢献活動の社外向け報告を適時開示 ③社員のボランティア活動の定着と活動内容の報告
①廃棄物の削減・リサイクル - 廃棄物の排出量は、17%削減 - 埋め立てに回される廃棄物の排出量は、0.8%増加(USA) ②省資源・省エネルギー - エネルギー使用量(原油換算)は、14.9%削減 - エネルギー使用量は、2.3%削減(USA) - 紙の使用量は、21%削減、水の使用量は11.5%削減(USA) ③エコプロダクツ - 環境配慮型製品の占める割合:72% - 省資源10%以上の機種の占める割合:67% - 消費電力改善率30%以上の機種の占める割合:56% - 機能、性能を考慮した評価基準を導入 ④維持監視項目 - 産業廃棄物と一般廃棄物の埋立率:0% - 自主管理基準超過件数:0件	○ × ○ ○ ○ △ ○ ○ ○ ○ ○ ○	①廃棄物の削減・リサイクル - 廃棄物の発生量を160.4トン以下に維持(国内アンリツグループ) - 埋め立て廃棄物の排出量を2009年度比10%削減(USA) ②省資源・省エネルギー - エネルギー使用量を2006年度比6.0%削減(国内アンリツグループ) - エネルギー使用量を2009年度比1%削減(USA) - 紙の使用量を2009年度比10%、 水の使用量を2009年度比2%削減(USA) ③エコプロダクツ (国内アンリツグループ) - 開発製品の中で環境配慮型製品の占める割合:80%以上 - 開発製品の中で従来機種比省資源10%以上の機種の 占める割合:30%以上(対象項目:体積、質量、分解時間、消費電力) - 開発製品の中で従来機種比消費電力改善率30%以上の 機種の占める割合:20%以上 ④維持監視項目 - ゼロエMISSIONの維持:埋立率0.5%未満(国内アンリツグループ) - 無機系排水の自主管理基準超過ゼロの維持:0件(厚木地区)
ステークホルダーとのコミュニケーションツールであるCSR報告の開示形態を改善。 ウェブサイトで詳細を、冊子でダイジェストを報告	○	発信頻度増大によるCSR報告の進化

第三者意見

企業の魅力というものは、企業がどのような意思をもって、将来の目指す姿をどのように描ききっていて、それに向けて今がどのような状況であるか、その目指す姿に向けた実行力はどうか、ということが伝わってきて、評価することができるように思います。

まず、社長メッセージから明確な意思が感じとれるか、についてです。技術進歩が非常に急速な情報通信業界に属するアンリツとして、「破壊と創造」の意としての「イノベーション」こそが利益ある持続的成長にとって非常に重要なキーファクターであるとするメッセージを、受けとめることができました。橋本新社長様ご就任直後に経営理念、経営ビジョン、経営方針をただちに改訂され、そこにおいてイノベーションが強調されていることから明かです。

次に将来の目指す姿についてです。報告が達成像によって構成されていることから、志向についてしっかりと伝わってきました。当年度はダイジェスト版においても環境面などでパフォーマンスデータの開示が見られ、昨年度より具体性を持った報告となっていることも評価できます。しかしながら達成像のレベル感について理解する内容として、イノベーションがキーファクターであるとするなら、対応するキーパフォーマンス指標は何であり、そこでの達成レベルはどこにあるでしょう。

続いて、達成像に向けての今がどのような状況であるか、さらにその実行の力強さについてはどうでしょう。達成像ごと

に分類された実際の取り組み記述は、熱意が伝わってくる立派な内容を多く含むものであり、アンリツの今の活動レベルの高さを理解することができるように思います。特にキーファクターに関連した達成像1では、アンリツならではの高度な技術力によって、情報化社会を様々な場面で下支えし、社会へ貢献している姿を理解することができました。しかし、目指している達成像へ向けた距離感と、その達成に向けた実行力の確かさについて、やはりよく理解することができません。

達成像ごとにいくつもある目標と実績の報告でなく、このキーパフォーマンス指標をクリアすれば残りの全体も大きな改革に向かうといったような、キーファクターに関連した指標が提示され、その指標達成に向け全従業員が一丸となって取り組んでいる状況や、確かな実行力についての報告がなされるならば、アンリツの魅力をより一層理解することができるように思います。



株式会社サステナビリティ会計事務所
代表取締役 福島 隆史

第三者意見を受けて

昨年ご指摘を受けた「12の重要課題のさらなる絞込み」については、2009年度に5項目への絞込みを実施しました。また、2010年度は、改訂した経営理念、経営ビジョン、経営方針をCSR活動に盛り込み、中期経営計画(GLP2012)のCSR戦略として策定し、活動を開始しました。

今年ご指摘いただいた「キーファクターであるイノベーションに対応するキーパフォーマンス指標の設定と達成レベルの報告の重要性」は、新たな視点からの課題であり、今年度のCSR活動に反映させてまいります。

今後も福島様からの指摘事項やステークホルダーの皆さまから

のご意見などを真摯に受けとめ、社会から信頼され期待される企業として持続可能な社会に貢献していく所存ですので、今後ともご支援をお願い申し上げます。



アンリツ株式会社
取締役 常務執行役員
山口 重久

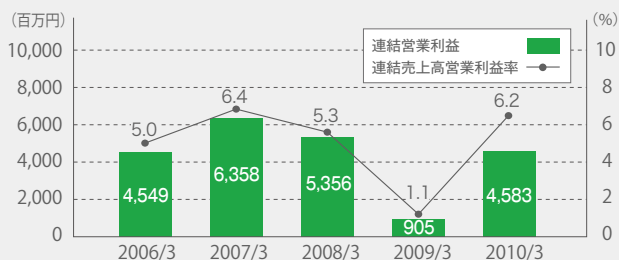
会社概要



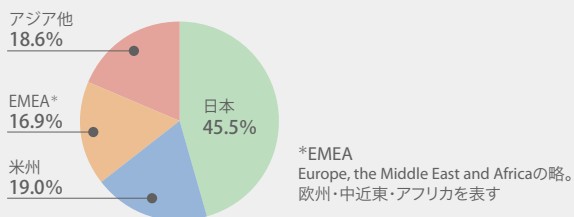
本社所在地 神奈川県厚木市恩名5-1-1
 創業 1895年
 資本金 140億49百万円^{*1}
 売上高 735億48百万円^{*2}
 株主数 16,304名^{*1}
 社員数 3,589名(連結)^{*1}
 831名(単独)^{*1}
 取引先社数 830社^{*3}

^{*1}:2010年3月31日現在 ^{*2}:連結:2010年3月期 ^{*3}:2010年6月25日現在

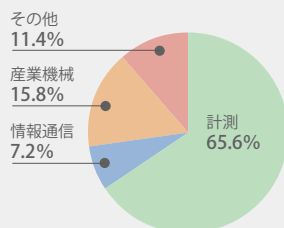
■連結営業利益／連結売上高営業利益率



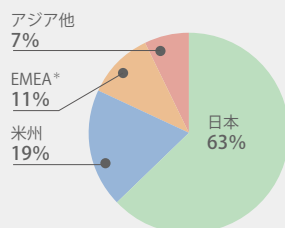
■地域別連結売上高比率 (2010年3月期)



■事業別連結売上高比率 (2010年3月期)



■地域別社員比率 (2010年3月期)



■アンリツ(株)社員データ

社員数 ()は幹部職数 で内数		2007年度	2008年度	2009年度
	男性	938 (224)	745 (167)	719 (171)
	女性	136 (4)	128 (5)	112 (5)
	計	1,074 (228)	873 (172)	831 (176)

■グローバルにみた女性の活躍状況(2010年1月末現在)

	日本	米州	EMEA	アジア他	グローバル計
全社員に占める女性社員の比率 (女性社員数÷全社員数)	13%	31%	22%	31%	23%
男性を100とした女性の幹部職登用率 (女性幹部職数÷女性社員数)÷ (男性幹部職数÷男性社員数)	19%	64%	74%	33%	50%

■障がい者雇用の推移

	2007 / 12	2008 / 12	2009 / 12
目標雇用率(単独)	1.80%	1.80%	1.80%
実績雇用率(単独)	1.84%	1.59%	1.76%
参考:実績雇用率(国内連結)	1.57%	1.44%	1.37%

国内グループ会社

- アンリツ産機システム株式会社
産業機械の開発・製造・販売・修理・保守
- 東北アンリツ株式会社
情報通信機器・計測器の製造
- アンリツ計測器カスタムサービス株式会社
計測器の校正・修理・保守・EMC試験
- アンリツデバイス株式会社
光デバイスの開発、製造、販売
- アンリツネットワークス株式会社
情報通信製品の開発、販売、システム設計、保守、サービス
- アンリツプレジジョン株式会社
精密計測機器の開発、製造、保守
- アンリツエンジニアリング株式会社
ソフトウェア・ハードウェアの開発
- アンリツ興産株式会社
計測器のリセール・リサイクル、デザイン・ドキュメント・名刺制作、その他
- アンリツ不動産株式会社
不動産の賃貸
- アンリツテクマック株式会社
切削・板金部品、ユニット組立品の製造・販売
- 株式会社アンリツプロアソシエ
経理財務、給与計算、福利厚生に関するシェアードサービスセンター業務

海外グループ会社

- Anritsu U.S. Holding, Inc.(U.S.A.)
- Anritsu Company(U.S.A.)
- Anritsu Instruments Company(U.S.A.)
- Anritsu Industrial Solutions U.S.A. Inc.(U.S.A.)
- Anritsu Electronics Ltd. (Canada)
- Anritsu Eletronica Ltda. (Brazil)
- Anritsu Company, S.A. de C.V. (Mexico)
- Anritsu Ltd. (U.K.)
- Anritsu EMEA Ltd. (U.K.)
- Anritsu Industrial Solutions Europe Ltd.(U.K.)
- Anritsu S.A. (France)
- Anritsu GmbH (Germany)
- Anritsu S.p.A. (Italy)
- Anritsu Solutions S.p.A. (Italy)
- Anritsu AB (Sweden)
- Anritsu AB (Finland)
- Anritsu AB (Denmark)
- Anritsu A/S (Denmark)
- Anritsu EMEA Ltd. - Dubai Liaison Office (U.A.E.)
- Anritsu EMEA Ltd. - Representation Office (Russia)
- Anritsu Company Ltd. (China)
- Anritsu Electronics (Shanghai) Co., Ltd. (China)
- Anritsu Industrial Solutions (Shanghai) Co., Ltd.(China)
- Anritsu Company, Inc. (Taiwan)
- Anritsu Corporation, Ltd. (Korea)
- Anritsu Pte. Ltd. (Singapore)
- Anritsu Industrial Solutions (Thailand) Co., Ltd.(Thailand)
- Anritsu Pte. Ltd. India Branch Office (India)
- Anritsu Pty. Ltd. (Australia)



Discover What's Possible™

アンリツ株式会社

〒243-8555 神奈川県厚木市恩名5-1-1

TEL:046-223-1111

<http://www.anritsu.com>

本書は再生紙を使用しています。